

■尾上菊五郎(5代) 歌舞伎役者。“団・菊・左”の黄金時代築き、古典歌舞伎の型の確立に尽力、“新古劇十種”を制定。

おのえきくごろう

天保改革終・1844＝

江戸の芝居町猿若町で、12代市村羽左衛門の次男に生まれる。母は3代菊五郎の次女。本名寺島清。

阿部正弘首座1845＝1歳：

北斎没・・・1849＝5歳：市村座で2代目市村九郎右衛門を襲名して初舞台。

国定忠治疎・1850＝6歳：\_早くも、大名跡13代目市村羽左衛門を襲名し、市村座の座元となる。

ペリー来航・1853＝9歳：

\_初代花柳寿輔・4代市川小團次の薫陶をうけ、

蕃書調所・・・1857＝13歳：\*市村座で初演された河竹黙阿弥作「鼠小紋東君新形」(鼠小僧)で蜷売り三吉を勤めて、主役の4代目市川小團次を陰らせ、以後一目置かれるとともに、小團次の写実的な演出に傾倒して行く。

母方の祖父三代目尾上菊五郎には二男二女がいたが、二男はすでに亡く、

桜田門外変・1860＝16歳：長女の婿養子4代目尾上菊五郎が子なくして死去すると、\_菊五郎襲名が当然視されるようになるなか、

生麦事件・・・1862＝18歳：\*両国橋で女物の着物を着ていたところを河竹黙阿弥に見かけられ、黙阿弥から話を聞いた3代目歌川豊国が錦絵「青砥稿花紅彩画」にしたのをもとに、黙阿弥が書上げた芝居(弁天小僧)の主役菊之助となり大当たり、

8月18日政変 1863＝19歳：\_弟を14代目市村羽左衛門として市村座座元を譲り、自らは8代目市村家橋を襲名。

明治維新・・・1868＝24歳：\*満を持して、市村座で5代目尾上菊五郎を襲名、以後、時代物、世話物、所作事などで、明治の劇壇の頂点を極めてゆく。

廃藩置県・・・1871＝27歳：

明治6年政変 1873＝29歳：

\_9代市川團十郎・初代市川左團次とともに“団・菊・左”とならび称され、明治劇壇を代表する役者として活躍した。実盛・仁木弾正・名古屋山三などの時代物もよくしたが、黙阿弥と提携した世話物とくに生世話物にすぐれ、また文明開化期の新風俗を取り入れた散切物に本領を発揮した。髪結新三・魚屋宗五郎・「加賀鳶」の梅吉と道玄・野州無宿の富蔵・片岡直吹郎・明石の島蔵・筆屋幸兵衛・塩原多助・め組の辰五郎・白井権八などが当たり役。祖父ゆずりの怪談狂言や、土蜘蛛・茨木・辰橋などの舞踊劇のほか、政岡・お岩などの女方もよくし、写実的な表現にすぐれた才能を示し、後世の手本となったものは数多い。

・・・1880＝36歳：

明治14年政変1881＝37歳：

国民之友始・1887＝43歳：\_井上馨邸で、團十郎、左團次とともに天覧劇を披露、歌舞伎役者の地位向上に努める。

帝国憲法発布1889＝45歳：

研究心が旺盛で、「加賀鳶」の道玄の衣装も自身で古着屋をさがしたり、「人情断文七元結」では登場人物になりきるため左官の癖と道具の使い方を研修したり、

足尾鉞毒始・1891＝47歳：「風船乗評判高閣」では風船乗スペンサーを演じるために慶應義塾を訪ねて英語を習うなどしている。

日清戦争始・1894＝50歳：

日清戦争終・1895＝51歳：

如才のなさが舞台に入れるくすぐりとなって客を沸かせていたが、

八幡製鉄始・1897＝53歳：「網模様灯笼菊桐」、

子規句歌革新1898＝54歳：「天竺徳兵衛韓嘶」など、しつこすぎて一部の観客や批評家から苦情が出ることもあった。

\_市川家の「歌舞伎十八番」に対抗し、尾上家の当たり狂言のなかから「新古劇十種」を制定するなど、明治期の歌舞伎界にはたした役割は大きい。晩年には9代團十郎・初代左團次と共演して、古典歌舞伎の様式的な型の確立にすぐれた業績を遺し、

教科書疑獄・1902＝58歳：すでに身体が自由が利かず、歌舞伎座での「忠臣仮名書講釈」の喜内は寝たきりのまま、生涯の当り役だった「青砥稿花紅彩画」の弁天小僧も、一か所のみ、舞台上に鉄の棒を立て、そこに体を支えての渡り科白という\***壮絶なものを演じたのを最後に、**

日比谷公園・1903＝59歳：\_病没した。

あとを追うかのように團十郎と左團次も次々に死去、明治歌舞伎の黄金時代が幕をおろした。